

平成27年10月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

「瓦」に魅せられて

学芸員(展示担当) 宮原正樹

常に私の頭から離れない「瓦」について、自己紹介を兼ねてお話ししたいと思います。

瓦というと、普段私たちの頭より高いところにあり、さらに最近では瓦葺の屋根も減ってきており、あまり気にかけないのではないのでしょうか。しかし、古代における瓦は、寺院や官衙(役所)や宮都の建物などの限られた建築物に葺かれた特別なものでした。そのため、寺院建築の伝来する白鳳期から奈良・平安時代を中心とした古代社会を考える上で、大変貴重な資料となっています。

その瓦に魅せられたきっかけは、大学時代。私が学んだ大学は古瓦研究の伝統が脈々と受け継がれてきたこともあり、南比企窯跡群の窯跡から出土した武蔵国分寺創建期の瓦が詰まったコンテナが棚を埋めるように積まれていました。その研究室に入学早々の4月に呼ばれ、瓦の拓本に使用するタンポを、小指の先サイズから拳大までいくつも作成、その後は毎日のように拓本と実測。もちろん土器や石器の実測も行いましたが、瓦と向き合った時間とは比べものにはなりません。入学前は、地元秩父の群集墳に興味がありましたが、瓦に触れ合う中で、次第に古瓦研究のおもしろさに取り憑かれ、この研究が私のライフワークになるかも知れません。

そして、幸運なことに我が埼玉県は、1980年代の埼玉県史編さん室の調査をはじめ、古代寺院の研究が早くから進み、当館常設展示中の飛鳥寺同系瓦が出土し関東最古級の寺院とされる滑川町寺谷(てらやつ)廃寺や、高麗建郡1300年を迎える日高市女影廃寺、大寺廃寺、高岡廃寺といった、古代寺院跡とその出土資料が数多く残されています。また、8世紀には武蔵国内の須恵器供給を一手に担い、武蔵国分寺創建のために瓦を生産した鳩山町南比企窯跡群などの生産遺跡も所在しています。しかし、1980年代の先行研究から約30年、その後新たな出土資料も確認され、課題が生まれた遺跡もあり、瓦の再検討が必要であることも事実です。先行研究は軒先を飾る瓦(軒先瓦)に偏っており、今後は瓦の製作技法について分析を進める必要があると考えています。例えば、古代高麗郡、現日高市高岡廃寺出土の軒丸瓦にみられる「高岡技法」と呼ばれる技術は、瓦生産の衰退する9世紀において注目すべき点であり、この技術を独自に保有していた高麗郡の性格を考える上で重要な材料となります。このように、瓦は一見ガラクタでも古代を映す宝物であり、現物第一の考古学において重要な位置付けにある資料といえます。

さて、4月1日、初めての勤務日のこと、季節展示室のモニターから聞き覚えのある声が聞こえてきました。見れば、若かりし頃の恩師の姿。その映像は、昭和47年(1972)の博物館の様子を伝える映像で、当館が「埼玉県立博物館」として開館した翌年に撮影されたものでした。当時、先生は、現在の私と同じ26歳、運命的、衝撃的な映像との出会いでしたが、その姿に、私はまだまだ修行が足りない、成長しなければ～と感じながら、展示室へ向かう採用初日となりました。

埼玉県の学芸員として奉職し、半年ですが、瓦をはじめ数多くの考古資料の価値を伝える展示をめざして、これからも努力してまいります。

どうぞ、よろしく、お願い申し上げます。

友の会トピックス

☆今後のイベントスケジュール

- 10月27日(火) 友の会・プレミアム講座 「特別展『慈光寺』関連のお話」
講師：西口由子氏(当館学芸主幹・日本美術史) <お申込みOK>
- 10月29日(木) 友の会・会員限定・見学会 ときがわ町「慈光寺」周辺
<満席につき、お申込みNG>
- 11月23日(月・祝)まで 博物館特別展「慈光寺 国宝・法華経一品経を守り伝える古刹」
<せっかくのチャンスをお活かしてください>
- 11月26日(木) 友の会・会員限定・見学会 「足利荘・新田荘」
<この号で発表・定員45名・お急ぎください>
- 1月10日(日) 友の会・博物館・共催・歴史講演会 「家康」関連～
講師：大石 学氏(東京学大教授) <お申込みは詳細発表後に>

☆見学会の会費事情について

観光バスの事故頻発で、ドライバーさんの勤務環境の改善が必要となって、バス運賃が急騰しています。民間営利会社の観光バス費用も上昇しているようですが、友の会の見学会会費も、これまでの設定価格では実施しにくい状況になってきています。
ぜひ、事情をご賢察くださいますよう、お願い申し上げます。

☆3月までの会費・1000円という機会に、あなたのお友だち、ご家族を友の会にお誘いを！
友の会の年会費は2000円。半年を過ぎましたので、いま、3月までの会費は1000円となりました。軽いお気持ちでのご入会、またはお試し入会にちょうどよいチャンスです。
あなたの周囲の方々に、ぜひ、友の会ご入会をおすすめください。イベントをご一緒にお楽しみいただき、知的な博物館ライフをお過ごしいただけると幸いです。

☆あなたも「クラブ」の立ち上げを！

いま、友の会には「浮世絵同好クラブ」「日本のお祭り研究クラブ」「古道散策倶楽部」の三つのクラブがあります。友の会の会員を対象に、同好の士が集まって活動していただくものです。趣味の多様化もあって、友の会も講演会、見学会だけではなく、もっと細分化されたジャンルに取り組みねばならない時期であるとも思われます。

三つのクラブも、いまは決して大きなものではありません。しかし、それぞれが固有の分野をもって、楽しい時間を過ごされています。

同好のお友達がいて、自慢話に花を咲かせ、あるいは行きたいところ一緒に訪問したりできることは、まさに至福の時間を過ごすことではないでしょうか。

まずは、「こんなことが好きな方がおられますか？」というお問合せから、お始めください。友の会としてはPRのスペースをできる限り、提供させていただきます。ご遠慮なくご相談くださるよう、お待ちしております。とりあえずは友の会へおハガキをお寄せください。

鎌倉街道を訪ねて《加村往還》

友の会・古道探索倶楽部 9月5日に開催

友の会・古道探索倶楽部の見学会第11回を9月5日に開催。総勢29名。今回は加村往還という川越線の日進駅から高崎線上尾駅までの鎌倉街道を訪ねました。街道は鴨川の東側を南北に通る道で、道標を兼ねた庚申塔や馬頭観音がたくさんあり、「東 はらいち いわつき 道」等と刻まれ、当時の人々の往來の多かったことをうかがわせています。主な見学先は以下の通りでした。

太田道灌の伝説にある「三貫清水」では、道の姿は典型的な雑木林の古道の景観そのものでした。記念写真(右)を撮りました。「武国神社」の境内裏は縄文時代の代表的な遺跡の一つであり、ここは早くから開発された様子がしのべれます。

「長福寺」は鎌倉～室町時代に造られた板石塔婆が発見され、うち完形のもの13基が境内に保存されています。板碑に興味のある方にとっては非常に充実した見学だったと思います。

上尾の「谷津観音堂」は真言宗のお寺に属するお堂で、その草創は約550年前といわれています。馬頭観音の大きな碑が数基あります。なお、参加者の北区の岡本さんには三貫清水を、上尾市の青木さんには上尾の天神社・庚申塔・谷津観音堂等の案内と説明をしていただきました。有り難うございました。次回は上道と中道を結ぶバイパス「志木から羽根倉橋を渡って浦和へ」の予定です。(高梨)



クラブ活動 今後の予定 (参加者募集)

◆『鎌倉街道を訪ねて』羽根倉道(引又道・奥州道)◆

古道探索倶楽部の第12回見学会

第12回鎌倉街道を訪ねて一。今回は東武東上線・志木駅より荒川に架かる羽根倉橋を渡って下大久保までを散策致します。この辺の地理に明るい部員がおりましたので、充実した散策となると思います。前回に引き続き、途中、友の会会員の方の史跡説明も交えて、また今回の勉強資料は、「仏教の宗紋と寺紋」を特集しています。これも是非参考にして下さい。

- ・日時：11月14日(土) 9時30分～15時30分(予定)
- ・集合：東武東上線 志木駅2F改札口付近 (9:30)
- ・コース：館ノ氷川神社→宝幢寺→田子山富士塚→いろは樋の大樹→旧村山快哉堂→郷土資料館→産財氷川神社→羽根倉浅間神社→羽根倉古戦場→羽根倉橋→千貫樋→舟和工場直売店→埼玉大学バス停
- ・参加費：資料代等300円
- ・その他：少雨決行(悪天候時には、連絡します)。歩行距離は約9kmで、史跡巡りをいれると約10kmです。歩きやすい服装・靴でご参加ください。昼食・水分は必ず事前に御用意願います。保険に加入。体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。
- ・問合せ先：前日まで犬走(いぬばしり) 電話 048-756-5634
当日は：小俣(おまた) 携帯 090-3436-9017
- ・参加申込み：10月31日(土)までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して、〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて。

<その他の活動予定>

- 『大江戸名所百景』を歩く―品川～高輪方面 浮世絵クラブ 第8回見学会 (JUNO 9月号に詳細) ◆
- ・期日：10月16日(金) 午前10時、品川プリンスホテルロビーに集合。
- ・申込方法：(以下でお願いします)
- ①FAX：048-470-2758 ②Eメール：pu8n-tki@asahi-net.or.jp
- ③「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォーム。
- *氏名・会員番号・連絡先電話などを明記
- ・問い合わせ電話 090-1990-4807 (つくい)

慈光寺をめぐる美術工芸品

～ 特別展「慈光寺」を味わい尽くす ～

ときがわ町の天台宗の古刹 慈光寺には、十一面観音立像(室町時代)や観音菩薩・勢至菩薩坐像(平安時代)など間近に見ることが難しい仏像もあります。今回の特別展「慈光寺」では、寺外初公開となるこれらの仏様に親しむことができます。本講座は、24日(土)の館主催の歴史民俗講座とほぼ同一内容ですが、質問時間を充分にとって、講師の先生との交流を図りたいと思います。

講師の西口由子さんは、日本美術史を専攻され、円空仏や太平記絵巻の研究経験を積まれています。本年度は、今回の特別展にご尽力いただく他、常設展示の美術展示室を担当されています。

講師 西口由子氏 当館展示担当学芸主幹

とき 平成27年10月27日(火)午後 1 時半～3時

ところ 当館講堂 **事前の質問歓迎!**

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し、あらかじめの質問があれば簡単に記入を! 10月24日(土)までに必着で、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達のご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

～ 晩秋の足利・新田の歴史探訪～

太平記の世界・足利荘と新田荘へ、いざ！

足利荘の文化の拠点・「^{ばんなじ}鏝阿寺」と「史跡足利学校跡」

新田義貞ら百五十騎が旗揚げした「史跡生品神社」

徳川氏発祥の地・新田荘歴史公園（世良田東照宮、長楽寺、同資料館）

〈見学コース〉

- ① 織姫山中腹にある「足利織姫神社」 ※見晴らしよし（石段 229）
 - ② 史跡足利学校跡（三門，孔子廟と復元方丈・書院，庭園，堀，土居など）
 - ③ ^{ばんなじ}鏝阿寺の国宝大御堂（本堂）と県文・楼門，重文の鐘楼，経堂など
 - ④ 足利市大町の「割烹・大津栄新館」で昼食（足利弁当）
 - ⑤ 元弘 3 年新田義貞ら 150 騎が旗揚げした「史跡生品神社」
 - ⑥ 新田荘歴史資料館（世良田東照宮，長楽寺，新田荘歴史資料館）
- * 見学時は歩く場所が多く、石段もあるので、歩きやすい服装・靴でご参加下さい。
- * 帰路での休憩は新田荘歴史公園から乗車後、約 60 分後に高速道路“羽生パーキング”で小休憩いたします。

日 時： 平成 27 年 11 月 26 日（木）雨天決行

集 合： 午前 7 時 30 分 出発（時間厳守お願いします）

JR 大宮駅西口・大宮ソニックビル西側大型バス待合わせ

※友の会旗を掲示

参加費： 7,000 円（昼食代・バス代・保険料など）※当日いただきます。

ご参加のお申込みは～

締切期日：11 月 21 日（土）

定 員：45 名（先着順とさせていただきます。）

申込資格：会員限定ですが、ご家族・友人は同伴参加いただけます。

申込方法：往復はがきに①見学会名②会員番号③氏名（同伴者名連記）

④電話番号（できれば携帯）を明記して会員 1 人 1 通にて

送付先：〒330-0852 さいたま市大宮区大成町 3-503-4 高瀬敏男 宛

お送りください。TEL048-652-7324（又は下記携帯へ）

その他：座席のご希望及び集合場所地図をご希望される方は葉書に明記願います。

※ 当日緊急連絡先：090-7170-3294 グループリーダー 岩井隆興

090-9104-2979 事務局 高瀬敏男

本所の鑓と寛政の改革

理事 山田 貴和 (見沼区)

御手先組弓頭兼火付盗賊改役長谷川平蔵宣以。ごぞんじ池波正太郎「鬼平犯科帳」の主人公である。火付はもちろん火札を付けても死罪の時代、火付盗賊改は先手組頭の加役で、享保3年(1718)、火付改、盗賊改、賭博改を統合して設けられた。吉宗政権の組織改革の一つである。

長谷川平蔵が実在の人物で火付盗賊改役を務め、石川島人足寄場の設置を提言し、その設置と運営に携わったことは知られている。しかし、若い頃は本所の鑓(テツ)と呼ばれる不良少年だった長谷川平蔵と、時の老中首座・將軍補佐松平定信の関係は少しく微妙であった。平蔵が火付盗賊改に起用されたのは天明7(1787)6月、定信の老中首座就任は3ヵ月後の9月である。平蔵42歳、定信30歳という。

この天明から寛政の時代は、多難かつ転換の時代と言える。天明3年(1783)の浅間山大噴火に始まり、東国の飢饉、老中田沼意次が失脚、將軍家治の死去と家斉の就任、米価騰貴の騒動と一揆、蝦夷地のアイヌ蜂起と続き、寛政4年(1792)にはロシアのラクスマンが来航する。社会不安と経済状況の悪化で江戸には無頼と無宿人が増えた。人足寄場はこの対策の一つである。この時の政治改革が寛政の改革である。平蔵は若き定信に新政治の希望を託して務めたのだろう。人足寄場の建設で褒章されている。

一方、巷間、次の話も伝えられる。二つの加役は知行と役料で賄えず、長谷川は首を括ると噂され、また人足寄場の建設資金の増額も認められなかった。平蔵は公金を銭相場に投資して稼ぎ出し無事建設をした。さすがではあるが、これはやり過ぎた。寛政4年6月、平蔵は人足寄場管理の任を解かれるが、火付盗賊改の加役はそのまま、黄金5枚の褒章だけであった。世上、町奉行待望論も聞かれたという。

定信は自叙伝「宇下人言」で、平蔵の能力と功績は認めたが、人柄を「山師」と書いている。有能、やり手で無頼、清廉潔白とは言い難い平蔵は、火付、盗賊、無頼相手に「蛇の道は蛇」と見られたのかもしれない。田沼への反感から便利な南鐮二朱銀の铸造停止、庶民救恤策の貸金会所の原資の減額、旧里帰農令の失敗～定信は経済にも疎く政治家でもなかった。「白川の清き流れに住みかねて・・・」の落首はこのことを示している。本所の鑓と青年宰相、二人は肌合いが違い過ぎた。平蔵が人足寄場の仕事から解放された翌寛政5年(1793)、定信は寛政の改革に失敗して老中と將軍補佐を辞任する。平蔵の定信と改革への思いは片思いであったのだろうか。

コナンドイルの名作「シャーロックホームズ」の愛読者で、彼の活躍した大英帝国ビクトリア女王時代の社会を研究し、語るのが真のシャーロックキアンであるという。鬼平犯科帳は人間の裸の姿を書いているが政治や社会は見えない。池波正太郎は寛政重修諸家譜を手元に置き、定信の平蔵評価を承知していたが書いていない。もっとも幕閣政争の書かれている鬼平犯科帳はぞっとする。鬼平犯科帳は、史論も史観も実証主義歴史学もさて置き、切絵図を見ながら町を巡り、うまい食物屋を探すのがよいのかもしれない。

友の会 トピックス

☆今後のイベントスケジュール

- 11月23日(月・祝)まで 博物館特別展「慈光寺 国宝・法華経一品経を守り伝える古刹」
〈せっかくのチャンスをお活かしてください〉
- 11月26日(木) 友の会・会員限定・見学会 「足利荘・新田荘」
〈定員45名・若干空席あり！お急ぎください〉
- 1月10日(日) 友の会・博物館・共催・歴史講演会 「家康没後400年」関連～
講師：大石 学氏(東京学大教授) 〈お申込みは詳細発表後に〉
大河ドラマなどの時代考証やタモリ、三宅裕之のマチ歩きのご案内など
テレビでいつもお目にかかる先生に、ご専門の江戸時代のお話を！

☆友の会のホームページをご覧いただいていますか？

[JUNOSAITAMA](http://junosaitama.expressweb.jp/)をご検索ください

または、<http://junosaitama.expressweb.jp/> をごらんください。

各イベントの結果など、JUNOの紙面では見られない情報に触れていただくことができます。

☆3月までの会費・1000円という機会に、あなたのお友だち、ご家族を友の会にお誘いを！

友の会の年会費は2000円。半年を過ぎましたので、いま、3月までの会費は1000円となりました。軽いお気持ちでのご入会、またはお試し入会にちょうどよいチャンスです。

あなたの周囲の方々に、ぜひ、友の会ご入会をおすすめください。3月までに、毎月1回行なわれるイベントをご一緒にお楽しみいただき、知的な博物館ライフをお過ごしいただけます。

☆もっと、「クラブ」ができないかな？

いま、友の会には「浮世絵同好クラブ」「日本のお祭り研究クラブ」「古道散策倶楽部」の三つのクラブがあります。友の会の会員を対象に、同好の士が集まって活動していただくものです。趣味の多様化もあって、友の会も講演会、見学会だけではなく、もっと細分化されたジャンルに取り組みねばならない時期になってきました。

三つのクラブも、まだまだ、大きなものではありません。しかし、それぞれが固有の分野をもち、少人数というメリットを活かした、小回りの効く活動で、ご参加の皆さんは、楽しい時間を過ごされています。

同好のお友達がいて、自慢話に花を咲かせ、あるいは行きたいところ一緒に訪問したりできることは、まさに至福の時間を過ごすことではないでしょうか。

例えば、古墳や遺跡を見て歩く、民俗芸能を鑑賞する、民具を収集する、古文書解読を勉強する、城郭を探索する～そんなクラブは考えられませんか？

どうしたら、そんなクラブができるでしょうか。それは、まず、集まって、趣味のお話をする～そんなところではないでしょうか。そんなお気持ちのある方がおられましたら、お声かけのお手伝いは、このJUNOでさせていただきます。ぜひぜひ、そのようなご相談をお待ちしています。

～ 晩秋の足利・新田の歴史探訪～

足利氏と新田氏の育ったところをジックリ見るツアー

足利荘の文化の拠点・「^{ばんなじ}鑊阿寺」と「史跡足利学校跡」

新田義貞ら百五十騎が旗揚げした「史跡生品神社」

徳川氏発祥の地・新田荘歴史公園（世良田東照宮、長楽寺、同資料館）

〈見学コース〉

- ① 織姫山中腹にある「足利織姫神社」 ※見晴らし良し（石段 229）
- ② 史跡足利学校跡（三門、孔子廟と復元方丈・書院、庭園、堀、土居など）
- ③ ^{ばんなじ}鑊阿寺の国宝大御堂（本堂）と県文・楼門、重文の鐘楼、経堂など
- ④ 足利市大町の「割烹・大津栄新館」で昼食（足利弁当）
- ⑤ 元弘3年新田義貞ら150騎が旗揚げした「史跡生品神社」
- ⑥ 新田荘歴史資料館（世良田東照宮、長楽寺、新田荘歴史資料館）

* 見学時は歩く場所が多く、石段もあるので、歩きやすい服装・靴でご参加下さい。

* 帰路での休憩は新田荘歴史公園から乗車後、約60分後に高速道路“羽生パーキング”で小休憩いたします。

日時： 平成27年11月26日（木）雨天決行

集合： 午前7時30分 出発（時間厳守お願いします）

JR大宮駅西口・大宮ソニックビル西側大型バス待合わせ

※友の会旗を掲示

参加費： 7,000円（昼食代・バス代・保険料など）※当日いただきます。

ご参加のお申込みは～

締切期日：11月21日（土）

定員：45名（先着順とさせていただきます。）

申込資格：会員限定ですが、ご家族・友人は同伴参加いただけます。

申込方法：往復はがきに①見学会名②会員番号③氏名（同伴者名連記）

④電話番号（できれば携帯）を明記して会員1人1通にて

送付先：〒330-0852 さいたま市大宮区大成町3-503-4 高瀬敏男 宛

お送りください。TEL048-652-7324（又は下記携帯へ）

その他：座席のご希望及び集合場所地図をご希望される方は葉書に明記願います。

※ 当日緊急連絡先：090-7170-3294 グループリーダー 岩井隆興

090-9104-2979 事務局 高瀬敏男

害虫・カビとの戦い！最前線

～博物館は、文化財をどのように守っているのか～

紙、木、金属、布、石といった多様な素材からなる資料を永く後世に伝えることも博物館の大事な機能。そこでは、そのような資料が、どのように收藏されているのか？

今回は保存管理の秘策、秘技の一端をお聞きしましょう。

博物館資料（文化財）を傷める害虫やカビをどう退治するのか。当館の現状、そして、その防除策は何か。私たちには見えないところで、日夜努力されている講師の野中仁さんに、すがたを現していただいて、存分に語っていただきます。

野中さんは、保存科学がご専門。出土文化財の保存、博物館の環境維持に豊富な知見をお持ちです。資料調査・活用担当として、資料の保存・管理、貸出し、特別利用、裏方探検隊などを担当されています。

講師 野中 仁 氏 当館主任学芸員

とき 平成27年12月3日(木)午後 1 時半～3時

ところ 当館講堂

事前の質問歓迎！

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し、あらかじめの質問があれば簡単に記入を！ 11月28日(土)までに必着で、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達にご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成27年12月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

「つながり」を大切に

学芸員（展示担当） 中村 陽平

採用後、もうすぐ一年となりますので、改めて自己紹介というのも憚られますが、経歴を含め簡単にお話したいと思います。

私の専門は、日本近世史（江戸時代）で、研究対象は藩政史、とりわけ、小さな藩を対象に在地支配と藩政のあり方について研究を進めてきました。従来、史料的制約もあり、研究の俎上に上がることの少ない「小藩」ですが、こうした藩にも「御用留」や地方史料が残されており、これらを丹念に集積し、分析することにより、新たな視点で藩政史を描けるものと考えています。

そうした研究を大学院で行う傍ら、東京都板橋区教育委員会で非常勤職員として5年間、主に区の指定・登録文化財の調査、登録にかかる文化財保護行政に携わってきました。中山道「戸田の渡し」の跡に架けられ、かつて戸田市と板橋区をつないでいた3代目戸田橋（現在は4代目）の親柱を、戸田市に先がけ区の文化財に登録したことに、不思議な縁を感じています。そして、こうした研究や仕事を続けてきた中で、私が抱く「学芸員」の役割の一つがこの「つながり」といったワードです。

日本史、とりわけ中世史や近世史を学ぶものにとっては、古文書は避けて通れない史料です。中でも近世史の場合は、未整理の古文書も多く、所蔵者のお宅や、地域の公民館に上がりこんで調査することも多々あります。したがって否応なく、所蔵者やその地域と関係性を持つこととなります。そのため重要なのが、いかに所蔵者と信頼関係＝つながりを築いていくかということです。これは調査そのものよりも大切なことで、かつ一番困難なことです。古文書解読は辞書があれば、いちおう事足りますが、所蔵者との関係性にマニュアルはありません。こうした点は、なにも古文書の調査にとどまる問題ではありませんが、地道な調査を通じて所蔵者とのつながりを築き、所蔵者と資料を結び、あるいは調査・研究の成果により、地域と資料を結びつけ、つなげていくことが、学芸員の役割の一つとして、研究以上に求められるものと考えています。

翻って博物館学芸員として考えても、このつながりを保つ、橋渡しという役割が重要と考えます。博物館スタッフ間のつながりはもちろんのこと、博物館への来館者と博物館・博物館資料との橋渡しをするのが学芸員としての役割です。あるいは、資料所蔵者との関係性を継続することや、博物館資料を守り、次世代に橋渡しをしてゆくことも学芸員として大切なことであろうと思います。

前職を離れる際、お世話になった古文書所蔵者の方々に、背中を押していただきました。今までに築いたつながりを大切にしつつ、埼玉県の学芸員として、新たなつながりを構築し、博物館と来館者・県民の方々をつなぐ橋のような存在を目指してゆきたいと思います。ややもすると、忘れてしまいがちな基本的なことではありますが、こうした初心の気持ちを忘れずに、職務に当たりたいと考えています。

今後ともよろしく願いいたします。

友の会 トピックス

☆今後のイベントスケジュール

- ◎1月 8日(金) 友の会・3クラブ合同主催「隅田川七福神めぐり」10時・浅草水上バス乗り場前集合・会費100円 詳細は別ページをご参照ください。
- ◎1月10日(日) 友の会・博物館・共催・歴史講演会 「徳川家康と『江戸の泰平』」
講師：大石 学氏(東京学大教授) 詳細は別ページをご参照ください。
大河ドラマなどの時代考証やタモリ、三宅祐司さんのマチ歩きのご案内などテレビでいつもお目にかかる先生に、ご専門の江戸時代のお話を！
<この号で発表させていただきました。一般募集もいたしますので、会員の方のお申込みはお早めに>
- ◎1月28日(木) 友の会・プレミアム講座「須恵器の製作技法を考える」
講師：岩田明広氏(当館学芸主幹)ロクロを実際に使う講座です。
人数制限を行なう予定。次号で詳細の正式発表後、お申込みください
- ◎2月23日(火) 友の会・日本の祭り研究クラブ主催「大宮住吉神社神楽と周辺歴史散策」
10時15分・東上線・若葉駅東口集合・会費50円・詳細は別ページ参照
- ◎2~3月は発掘現場見学と講演会の予定をしています。

☆友の会の「見学会委員」募集中

- ◎友の会の見学会は、毎年各6回を計画・実施してきました。会員の方にとりましては、一般の旅行会社のツアーとは大きく異なり、単なる観光ではなく、新しい知識が楽しみながら身につく貴重なチャンスとして喜んでいただいておりますし、その予定参加費と実際の所要費用との差額は友の会の貴重な財源とさせていただいているということで、当会の必要欠くべからざる事業になっています。
- ◎今後も、それを続けてゆくことを考えておりますが、その事業を担っていただくスタッフを増員いたしたく、募集させていただくことといたしました。
- ◎会員の皆さまをバスツアーなどの見学会にお連れし、喜んでいただくのに熱意を燃やしていただける方、ぜひ、手をあげていただきたく、お待ちしております。もちろん、お一人ではなく、みんなでコースを考え、レジュメを作り、ご案内するのですから、チームワークで動くことに順応していただくことが条件となります。
- ◎旅がお好きなかた、みんなを案内することが楽しい方、あなたのサービス精神を発揮していただくチャンスです。ハガキで友の会までお知らせください。友の会のホームページをご利用いただいても結構です。よろしく、お願い申し上げます。
- ◎なお、1年に6回の見学会ですが、すべての回にタッチしていただくのでは大変ですので、分担して関わっていただくことを考えております。

☆友の会のホームページをご覧いただいていますか？

JUNOSAITAMAをご検索ください

または、<http://junosaitama.expressweb.jp/> をごらんください。

鎌倉街道を訪ねて《羽根倉街道 (引又道・奥州道)》

友の会・古道探索倶楽部 11月14日に開催

天気の良い中、総勢 17 名参加。東武東上線の『志木駅』から『埼玉大学』への羽根倉街道 (引又道・奥州道) を訪ねました。羽根倉街道は中世の主要幹線路として軍事的機能、物資の輸送、文化の伝播に大きな役割を果たした上道、中道をつなぐ脇往還とされています。「館ノ氷川神社」は延暦年間坂上田村麻呂の伝説があり、「宝幢寺」は志木のカップ伝説発祥の地。「東明寺の庚申供養地蔵」には《墓俣》の文字が刻まれていて、その由来の案内板があります。「いろは樋」は野火止用水を引又から対岸の宗岡地区へ送水するために寛文 2 年に新河岸川上に掛けられ灌漑に利用したものです。「羽根倉古戦場」を見学し、最後は舟和浦和工場直売所で美味しい芋ようかんを食べて埼玉大学まで行って無事解散。次回は 3~4 月、「東所沢駅」から続編羽根倉街道 (引又道・奥州道) の予定。(詳しくは友の会ブログをご覧ください)



クラブ活動 今後の予定 (参加者募集)

◆ 浅草・向島の『隅田川七福神めぐり』 ◆

新年 1 月 8 日 (金) に 3 クラブ合同イベントです (参加自由)

- 《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「日本の祭り研究クラブ」「浮世絵クラブ」「古道探索倶楽部」
- 《内容》東京スカイツリーを眺めながら、ノンビリと七福神を祀る神社・寺院をめぐる。益々の健康増進と開運そして所願成就に参詣しましょう！
- 《行程概略》(コース約 6 km 2~3 時間程度) ①②三囲神社 (恵比寿・大国神) ⇒ ③弘福寺 (布袋尊) ⇒ ④長命寺 (弁財天) ⇒ ⑤白髭神社 (寿老神) ⇒ ⑥向島百花園 (福祿寿尊) ⇒ ⑦多聞寺 (毘沙門天)
- 《日時》2016 (平成 28) 年 1 月 8 日 (金) 小雨決行
- 《集合》浅草水上バス乗場前 10 時 (東武浅草駅出口 吾妻橋付近)
- 《費用》交通費及び保険代 (100 円) 等 (昼食は各自負担)
- 《持物等》歩き易い靴及び服装・雨具・飲物・カメラ等 (地図は用意します)
- 《申込》申込みは当日受付で行います。時間厳守をお願いします。
- 《幹事及び問合せ》元木孝 (携帯: 090-2259-1673) 筑井信明 (携帯: 090-1990-4807) 犬走東道 (048-756-5634)
- 《その他》混雑が予想されます。友の会の「黄色い旗」を目印にしてください。

◆ 『大宮住吉神社神楽と周辺歴史散策 (坂戸市)』 ◆

2 月 23 日 (火) 友の会「日本の祭り研究クラブ」見学会のお知らせ (参加自由)

- 《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「日本の祭り研究クラブ」
- 《内容》大宮住吉神社神楽 (埼玉県指定無形民俗文化財) と周辺歴史散策 (坂戸市)
- 《行程概略》大宮住吉神社は北武蔵十二郡の総社として歴史ある神社です。この神社に伝わる神楽は劇 (演劇) の神楽で、能や狂言、歌舞伎などの影響を受け演劇的で、滑稽な動きのある娯楽性の強い神楽で「江戸の里神楽」と呼ばれている。鷲宮催馬楽神楽は舞 (踊り) を中心とした神楽です。違いを感じてはいかがでしょうか。歴史散策は資料館、県内最古のお寺の一つ勝呂廃寺及び源義家関連史跡並びに東山道武蔵路跡など
- 《日時》2016 (平成 28) 年 2 月 23 日 (火) 10 時 15 分~16 時 雨天決行
- 《集合》東武東上線「若葉駅東口」改札出口 午前 10 時 15 分 (バス 31 分)
- 《費用》交通費 (電車・バス等)、保険代 50 円等
- 《持物等》歩き易い靴及び服装・昼食弁当・飲物・カメラ等
- 《申込・問合せ》元木孝 (携帯: 090-2259-1673)
- 《その他》次回予定は 平成 28 年 5 月 15 日 (日) 川の大じめ等 (上尾市)

■ 『JUNOML での情報活動にご協力ください！ 新規参加者も募集中です◆

10 月から、友の会会員 (Eメール所有者) に情報をお送りしています。この ML で発信する記事 (各種イベントのお知らせや会員の体験記など) を募集しています。ML に参加していない方もホームページからご連絡ください。

徳川家康と 「江戸の泰平」

講師：大石 学 先生 (東京学芸大学教授)

日時：平成28年1月10日(日)

午後1時半～3時

場所：当館講堂 (東武アーバンパークライン・大宮公園駅下車5分)

家康の、「泰平」というイメージとはどのようなものであったか。彼が戦国時代を終わらせ、作り上げた「泰平」は人々に何をもたらしたのでしょうか～

大河ドラマの時代考証やプラタモリ、三宅祐司さんの番組でも、その知識と優しい解説などで名高い大石先生の江戸時代のお話をお伺いしましょう。

お申し込みは、往復ハガキにイベント名・住所・氏名・電話番号・会員の方は会員番号を明記、返信面にも住所・氏名を記入、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。締切1月5日(火)。定員(150名)を超えた場合はお断りすることもあります。当日は返信ハガキをご持参ください。 **ご参加無料**

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

志木市「田子山富士塚」入山準備中

志木市文化財保護審議会会長 井上国夫（友の会会員）

田子山富士塚は志木市唯一の県指定文化財である。場所は、新河岸川ほとりの志木市役所から南東500メートル程にある敷島神社境内に築造された、高さ10メートル程の疑嶽富士山である。塚周辺には多くの石像物が林立し、塚の右麓に下浅間社の祠が祀られ、頂上には木花開耶姫命を主神とする祠が祀られている。

築造された由来は、地元の醸造業者・高須庄吉が当時古墳と伝えられる田子山塚の頂上に「板碑」を発見し、その銘文に発起して富士塚を築造する素願を立てたのは明治2年（1869）のことである。その銘文は5行に亘り、両側の梵字（光明真言）を除くと次の通りである。

瀧山千日富士峯前途入壇阿闍梨耶承海十瀧房四十五才逆修 曆応三年庚辰十一月日

阿闍梨の位を持つ僧十瀧房承海は、千日の行を修め富士山へ入定するために四十五才で逆修板碑を田子山塚の頂上に建て、曆応3年（1340）11月に富士山へ出発したのではなかろうか。

この板碑は、下浅間社のご神体として祠の中に埋め込まれて祀られている。曆応3年という早い時期から富士信仰が記録されることは珍しいことで、富士信仰の原点ともいえるのではなかろうか。また、江戸末期の文人齊藤鶴磯の著書『武蔵野話』に板碑の略図と銘文の解説が記載されている。

高須庄吉は、醤油醸造を生業とし、同志を糾合する一方で、醸造の神を祀る松尾神社の信者をはじめ、引又河岸の舟運関係者に協力と寄進を仰ぎ、田子山塚の上へ土盛りをする工事に着手し、併せて岩石の配置・植樹・諸神の祭祀から御胎内を設けた。庄吉の敬神の念に基づく義拳が伝わると、遠近各地から馳参じて工事に協力する者、寄進に応じる者がその数を増して、田子山富士塚を明治5年に完成させた。この工事には、各地から多くの支援や協力が寄せられ、商人と交流のあつた歌舞伎役者など、記録された人数は2416人に及んだ。

高須庄吉は富士講を結成し、講の運営とともに田子山富士塚の保存・修復を実施してきた。戦中・戦後は敷島神社の氏子と本町町内会を中心に保存・修復を行ってきたが、志木市指定文化財にしたいという気運が高まり、平成8年に市教育委員会『田子山富士』報告書が完成したことで、紆余曲折はあつたが平成16年に市指定文化財に登録された。

県指定になるのは早かった。「田子山富士保存会」が平成17年に発足したことによる。保存会は志木市商工会の全面支援と敷島神社氏子、本町を中心とする町内会の会員による協力で、平成18年3月18日に県指定の文化財に登録された。その後、保存会はリニューアルされ6つの部会が設置された。それは総務部会、環境整備部会、行事部会、事業部会、研修部会、修復部会で各事業を実施してきた。詳細は田子山富士保存会HP：www.tagoyamafuji.org を参照されたい。

しかし、平成23年3月11日に起きた東日本大震災の影響で塚の石像物の転落や登山道の崩れなど被害が出た。県の指導で「田子山富士塚保存整備委員会」を立ち上げ、県文化財保護審議会の大館勝治氏が委員長に就任された。保存整備の順位などを決め、2年度に亘って実施されることになった。初年度は登山道の修復を中心に、次年度は御胎内入口の修復を中心に実施することにした。

初年度は無事に終了し、7月の山開きには田子山富士塚の頂上で富士山を礼拝できそうである。

振替貯金用紙を同封させていただきました。28年度会費ご納入、よろしくお願いいたします

友の会トピックス

☆今後のイベントスケジュール

- ◎1月28日(木) 友の会・プレミアム講座「須恵器の製作技法を考える」 (別ページにて詳細)
講師：岩田明広氏(当館学芸主幹) ロクロを使ってミニ須恵器を作る講座です。
「はにわ」をつくることはよくあるイベントですが、「須恵器」製作講座は、めったにないものです。ぜひ、ご参加をお考えください。
参加お申し込み開始いたしました。先着40名を超えた場合は傍聴のみの参加とさせていただきます。(傍聴のみの方には、電話連絡をさせていただきます)
- ◎2月6日(土) 友の会・見学会「古代ロマンがあなたの目の前に展開する」(別ページにて詳細)
栃木県最大と考えられてきた琵琶塚古墳は、いわば埼玉県では二子山古墳です。
その発掘現場を見せていただけるチャンスに薬師寺、国分寺跡、栃木県にしかない「下野型古墳」とはどういうものかも見ていただける「オトクな見学会」です。
- ◎2月21日(日) 友の会・博物館・共催・講演会「近世庶民の笑い」 (別ページにて詳細)
講師：中山尚夫氏(東洋大学教授)
それまでの「雅」という文化から、庶民の「笑い」文化は、どのように発生したのか? 「笑いというものの発生」について考えてみたいのです。
- ◎2月23日(火) 友の会・日本の祭り研究クラブ「大宮住吉神社神楽と周辺歴史散策」(別ページにて詳細)
- ◎2月28日(日) 友の会・浮世絵クラブ「浮世絵美術館と明治の森~代々木散策」(別ページにて詳細)

○2月は、講演会1回の予定でしたが、発掘現場の見学は「年度末には発掘を終えなくてはならない」とありますので、見学会も2月に繰り上がってしまいました。状況をご理解のうえ、「友の会」のイベントをますます、お楽しみくださるようお願いいたします。

4月以降のプログラムにつきましては、新設の「見学会委員会」と「講演会委員会」で、検討中です。ご期待くださいますよう、お願いいたします。

○前号でも、「見学会委員募集」のお願いを掲載いたしましたが、積極的なご応募をお待ちしています。

旅を考えるのが楽しい方、仲間を旅につれてゆくのが好きな方~そんなサービス精神に溢れたあなたをお待ちしています。友の会へのおハガキ、ホームページのご利用により、ご連絡をお願いいたします。

大江戸名所百景を歩く—浅草～蔵前方面

友の会浮世絵クラブの第9回見学会 12月11日に開催

かなりの雨の中、10時に都電・三ノ輪橋駅に集合。休んでいるうちに雨があがり 20度を越える暖かい快晴になるという驚きの陽気の中、ほぼ予定通りに進行。日光街道沿いの通称“投込寺”の浄閑寺から浅草まで続いているのが日本堤。現在も「土手通り」の名称で残されています。この土手沿いに作られたのが有名な吉原遊郭。さらに山谷堀を越えて進むと、隅田川沿いに見えるのが待乳山に建てられた聖天院。ここで記念撮影(写真)。次いで、芝居小屋がいくつもあり、夜までにぎわったという猿若町へ。満月の下で人が行き交う情景を描いた江戸名所百景中の名作の舞台です。昼食は神谷バーへ。



午後は雷門だけでなく浅草寺に参拝。午後は川沿いの遊歩道を歩いて橋巡り。この季節とは思えないこちち良さでした。駒形橋、御厩河岸、浅草川首尾の松御厩河岸の舞台へ。街も川も大きく変わっていますが、遊歩道に設置された当時の浮世絵や絵図などの案内版を見ているといつまでも興味がつきません。(NT記。詳しくは友の会ブログをご覧ください)

クラブ活動 今後の予定 (参加者募集)

◆浮世絵美術館と明治神宮の森～代々木散策(参加自由)◆

2月28日(日)に「浮世絵クラブ」主催の「まち歩き」

《内容》浮世絵美術館と早春の明治神宮の森～代々木散策

《行程概略》東京・表参道の太田美術館は14000点以上の浮世絵を集めた専門美術館です。時期に応じて作品を順次展示します。この日の特別展は「勝川春章—北斎誕生の系譜」です。日曜日にはよくわかる「浮世絵の歴史」を上演しています。午後は明治神宮に。参拝だけでなく、本多清六博士らが設計した「不思議の森」の全貌を歩いてみます。国立代々木競技場も訪れて50年前のオリンピックの熱気をしのび、迷宮のような渋谷駅で解散予定。

《日時》2016(平成28)年2月28日(日) 10時～15時頃 雨天決行

《集合》午前10時 明治神宮前「五輪橋」(JR山手線「原宿」駅からすぐ。友の会の旗を目印に)

《費用》交通費(電車・バス等)、入館料1000円 保険代など。

《持物等》街中ですので自由な服装でどうぞ。徒歩で移動します。

《申込・問合せ》①FAX: 048-470-2758 ②Eメール: pu8n-tki@asahi-net.or.jp

③なるべくホームページの「申込フォーム」より送信フォームで登録をお願いします。

《その他》今後、浮世絵の舞台だけでなく、広く歴史文化を訪ねる「まち歩き」を企画する予定です。

◆『大宮住吉神社神楽と周辺歴史散策(坂戸市)』◆

2月23日(火)に「日本の祭り研究クラブ」主催の見学会

《内容》大宮住吉神社神楽(埼玉県指定無形民俗文化財)と周辺歴史散策(坂戸市)

《行程概略》大宮住吉神社は北武蔵十二郡の総社として歴史ある神社です。この神社に伝わる神楽は劇(演劇)の神楽で、能や狂言、歌舞伎などの影響を受け演劇的で、滑稽な動きのある娯楽性の強い神楽で「江戸の里神楽」と呼ばれています。鶯宮催馬楽神楽は舞(踊り)を中心とした神楽です。違いを感じてはいかがでしょうか。歴史散策は資料館、県内最古のお寺の一つ勝呂廃寺及び源義家関連史跡並びに東山道武蔵路跡など。

《日時》2016(平成28)年2月23日(火) 9時30分～16時 雨天決行

《集合》東武東上線「若葉駅東口」改札出口 9時20分(バス30分)

《費用》交通費(電車・バス等)、保険代50円等

《持物等》歩き易い靴及び服装・昼食弁当・飲物・カメラ等

《申込・問合せ》元木孝(携帯:090-2259-1673)

■ 古道探索倶楽部の次回イベントお知らせ ■

第13回古道探索倶楽部イベントは、三月末か四月初の土曜日に、JR武蔵野線・東所沢駅～東武線・柳瀬川駅で現在計画中です。

近世庶民の笑い

庶民も笑った。いつの時代も。それに疑いはないのですが、何を笑ったのか、証拠が残っているのは近世。近世の庶民の「笑い」は、上流の人たちの「雅」文化に対する、「俗」文化の中心をなすものでもありません。新興庶民の心意気も感じられる、彼らの「笑い」について、お話しくださいませ。

講師 中山尚夫先生（東洋大学教授）

とき 平成28年2月21日（日） 午後1時半～3時

ところ 当館講堂（東武アーバンパークライン「野田線」大宮公園駅5分）

ご参加無料

ご参加のお申し込みは、往復ハガキにイベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記、2月17日（水）までに（必着）、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-2-19 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員（150名）を超えた場合はお断りする可能性があります。当日は返信ハガキをお持ちください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

須恵器の製作技法を考える

～ミニ須恵器を作って5世紀の社会を考えよう～

古代人の気持ちで土器を作ったら？当時の人はどのように須恵器を作ったか体験して考えてみましょう。今回は、考古学の考え方を体験から学んでみるという珍しい講座です。

5世紀に朝鮮半島から伝わり、その後日本化していった初期須恵器の製法の変化の過程は謎が多く、講座内容も謎がいっぱい！ 複数台のろくろで粘土を使います。汚れても良い服またはエプロンと手拭きをご用意の上、お集まりください。(下記のとおり人数限定)

岩田さんは、日本考古学、中でも方法論がご専門。特に型式学の理論や弥生時代から平安時代の土器・須恵器を研究されています。現在は企画担当として、県内の博物館の運営に関する協議や地域との連携のための仕事をされています。

講師 岩田 明広 氏 当館学芸主幹

とき 平成28年 1月28日(木)午後 1 時半～3時半

ところ 当館講堂 **先着40名限定**

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。

1月21日(木)までに必着で、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。実習を伴う内容のため、先着40名を超えた場合はお断りさせていただくか、傍聴のみの参加とさせていただきますので、ご了承ください。(実習不可の方には、別途電話連絡します。)

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

古代ロマンがあなたの目の前に展開する！

- ・琵琶塚古墳発掘現場
- ・下野薬師寺跡・下野国分寺跡
- ・下野型古墳・栃木県最大の吾妻古墳

行き先は栃木県小山市・下野市・壬生町。県内2番目の大きさで、現在、小山市で発掘中の琵琶塚古墳（小山市立博物館の方のご案内あり）。近くにあつて、琵琶塚に続く大きさの摩利支天塚古墳。天平時代の国内三戒壇の一つで、弓削道鏡の配流された下野薬師寺跡（下野市教委の方のご案内あり）。風土記の丘の下野国分寺跡、国分尼寺跡。県内最大で下野型古墳の典型・吾妻古墳。日本の古墳でも美しいとの声もある車塚古墳～をまわります。 <帰着・午後6時ごろの予定>

さて、ここ、栃木県でしか見られない下野型古墳とはどんな形をしているのでしょうか？

実施日・平成28年2月6日（土） 集合、出発・午前8時、大宮駅西口・ソニックビル西側 参加費・6500円（バス代・昼食代・その他） <積雪の際などは個別連絡し中止することもあります>

ご参加のお申し込みは～

- 往復ハガキに見学会名・氏名・住所・電話番号（固定および携帯）・会員番号を明記し、1月28日（木）必着で〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ ○定員45名（先着順） ○座席のご希望、集合場所地図ご希望の場合はハガキに記入ください
- ご家族・ご友人はご参加可 ○連絡先 090-2404-9553 中村 090-4139-2740 宮川

埼玉県立歴史と民俗博物館友の会

鯨 絵 の 世 界 ～企画展〈蔵出し資料〉によせて～

学芸主幹（展示担当） 加藤 光 男

安政 2 (1855) 年 10 月 2 日午後 10 時頃、マグニチュード 6.9 (大正 12 年の関東大震災は 7.9) と推定される直下型の大地震が江戸の町を襲い、江戸はもちろん、現在の埼玉県東部地域でも家屋が倒壊するなど大きな被害をもたらされました。この大地震の直後に、鯨を描き込んだユーモアと風刺に富んだ錦絵仕立ての摺物が大量に売り出され、庶民は、これをきそって買い求めたといわれています。この出版物が、今日、鯨絵と呼ばれているものです。

当館では、鯨絵から、地震に対する当時の認識や解釈、震災後の庶民の境遇の推移を知ることができるほか、幕末期の風俗が生き生きと描き込まれていることに注目し収集してきた結果、収蔵種類数および点数が国内屈指であることが、オランダ・オーストリア・ドイツ・フランス・アメリカなどの国外にも知られています。

現在の私たちは、錦絵を「世界に誇れる日本の芸術品」と評価・認識しています。しかし、江戸時代の人々にとって、錦絵は情報を入手するメディア（印刷媒体）でしかありませんでした。このため、錦絵には人々の関心のある内容や最先端の流行が描かれ、開国後は輸入された色料を用いるなどして購買意欲を誘ったのです。

一方、幕府は寛政の改革以降、出版物の統制強化を図りました。錦絵は許可を得ないと出版できなくなったのです。この時、時事ネタ（特に幕府政治を非難する内容）、根拠のない風説を記し人心を惑わす内容、春画の類の出版が禁止され、さらに、天保の改革時には雲母摺（きらずり）などの豪華な錦絵や役者絵・美人画の出版が禁じられました。

黒船の来航は、江戸庶民が泰平の眠りから覚める契機となり、平穏な生活が俄かにあわただしくなってきました。そのような中で、錦絵は時事を報じる多色刷りの印刷媒体としての役目を担うこととなります。ただし、時事ネタでは検閲が通りません。そこで版元は、二つの手段でこの問題をクリアしました。ひとつは、検閲が通るように現在の出来事を過去の事件に仮託して描く方法。もうひとつは、無届で、つまり検閲を受けずに出版する方法。この手法は違法行為であるため、本来明示される絵師名や版元名を錦絵に記すことはできません。鯨絵は、この手法により出版されたものです。鯨絵は、発禁処分の決定を受け、没収された版木が焼却されるまでの、わずか約 2 か月半の期間、刊行されました。この短期間に、江戸庶民の震災に対する認識が変化してきたことが、鯨絵から如実に読み取ることができます。

プレミアム講座では、このような時代背景のもとで刊行された災害報道の商品「鯨絵」に描かれた内容を、図柄と画面に刷り込まれた文章（詞書＝ことば書き）から具体的に読み解いて、お話したいと思っています。

28 年度会費ご納入の際は、同封の振替用紙をご利用くださいますようお願い申し上げます

友の会トピックス

☆今後のイベントスケジュール

- ◎2月21日(日) 友の会・博物館・共催・講演会「近世庶民の笑い」 午後1時半～
講師：中山尚夫氏(東洋大学教授) おハガキ、お申込み受付中。
それまでの「雅」という文化から、庶民の「笑い」文化は、どのように発生したのか? 「笑いというものの発生」について考えてみたいのです。
- ◎2月23日(火) 友の会・日本の祭り研究クラブ 「大宮住吉神社神楽と周辺歴史散策」(別ページに詳細)
- ◎2月28日(日) 友の会・浮世絵クラブ 「浮世絵美術館と明治の森～代々木散策」(別ページに詳細)
- ◎3月19日(土) 友の会「館長特別ご優待」イベント(別ページに詳細)
- ◎3月26日(土) 友の会見学会「宮代町・びっくりぽん!見学会」(別ページに詳細)

友の会求人欄

❖ まだまだ、寒さが続いています、春の兆しも少しずつは見えてきていますね。

お暮しの変わり目でもあります。お仕事の方も区切りがついて、このあたりで何か、社会のために役立つことしてみたい～とお考えの方もあるかと思えます。

❖ ぜひ、友の会のサポーターになっていただくこともお考えください。

博物館での受付の仕事から始めて、見学会や講演会の企画や実行、全体の運営にかかわることまで、お手伝いいただきたいことが、ヤマヤマございます。これは友の会を通じて「博物館」を応援し、ひいては埼玉県文化をお支えいただくことにもつながります。

そして、その活動のさまざまな場面を通して、あなたの知識を深めていただけるチャンスもあります。

❖ ただ、無償ボランティアであるということ、そして、どんなご要職におつきだった方でも、会報の発送とかの作業も気持ちよくお手伝いいただかねばならないことをご了承いただかねばなりません。それによって、会員の方々が喜んでいただいている姿を見る～のを楽しみとしていただける方が希望です。他の方の喜びをご自分の喜び、楽しみとしていただく～そんなお気持ちをお考えいただきたいと思えます。

❖ ご相談、ご質問は、土日祝に出ております友の会の受付へ。

40名が参加、新春の向島を歩き、新たな発見も

友の会 3 クラブ合同の新春・隅田川七福神めぐり 1月8日に開催

初春七草の間に寿福を祝い、家内繁栄、家業隆盛を願う初参り行事の創始が隅田川七福神だそうです。隅田川に沿った寺社・旧跡等は江戸の秘められた歴史が多く参加者にとって新たな発見を提供してくれる刺激的な場所でした。

コースは牛嶋神社 (関連あり) ⇒三囲神社 (恵比寿神・大国神) ⇒弘福寺 (布袋尊) ⇒長命寺 (弁財天) ⇒百花園 (福祿寿尊) ⇒日鬚神社 (壽老神) ⇒多聞寺 (毘沙門天)。牛嶋神社では、めずらしい三輪鳥居及び三角石鳥居を見ました。三囲神社は弘法大師が祀ったという田中稲荷が始まり、当時は田んぼの中にあっただようです。

七福神で唯一実在した布袋尊の弘福寺から長命水の名をいただき、寺号も長命寺とした弁財天を訪れ、文化年間に開かれた百花園では、ここに集まる江戸の文化人たちの発案で隅田川七福神がはじまったとのことで、全員で記念撮影。花々が咲いているときに再訪をすると良さそう。午前中、最後の壽老神の白鬚神社を参拝後、昼食休憩。午後は、毘沙門天の多聞寺に向かう。本尊の毘沙門天は弘法大師の作と伝えられる伝説が残ります。山門は切妻造り茅葺きの四足門。14 時頃、無事終了。好天に恵まれ、楽しく過ごすことができました。(詳しくは友の会ブログをご覧ください)



クラブ活動 今後の予定 (参加者募集中)

◆ 鎌倉街道を訪ねて—羽根倉道 (引又道) ◆

4月2日 (土) に「古道探索倶楽部」主催の第13回見学会 東所沢駅～柳瀬川駅まで

- 《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「古道探索倶楽部」
- 《日時》2016 (平成 28) 年 4 月 2 日 (土) 9 時 30 分～15 時 30 (予定)
- 《集合》J R 武蔵野線・東所沢駅改札口付近 (9:30)
- 《コース》東福寺→本郷氷川神社→下組八幡稲荷神社→滝の城跡→東光寺→普光明寺→大和田氷川神社→三芳町歴史民俗博物館→泉蔵院→竹間神社→柳瀬川駅 ((歩行距離は約 10km で、史跡巡りをいれると約 11km です))
- 《費用》資料代等 300 円
- 《持物等》歩き易い靴及び服装・昼食弁当・飲物・カメラ等
- 《申込・問合せ》前日まで犬走 (いぬばしり) 電話 048-756-5634
当日は 小俣 (おまた) 携帯 090-3436-9017
- 《その他》少雨決行 (悪天候時には、連絡します)。途中でコンビニが少ないので、昼食・水分は必ず事前に御用意願います。保険に加入しております。体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。
- 《申込・問合せ》3月19日 (土) までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号 (ご自宅・携帯とも) を明記して、〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸 3-8-17 犬走東道あて

その他の案内 (前号に詳細情報)

◆ 『大宮住吉神社神楽と周辺歴史散策 (坂戸市) ◆

2月23日 (火) に 「日本の祭り研究クラブ」主催の見学会

- 《内容》大宮住吉神社神楽 (埼玉県指定無形民俗文化財) と周辺歴史散策 (坂戸市)
- 《日時》2016 (平成 28) 年 2 月 23 日 (火) 9 時 20 分～16 時 雨天決行
- 《集合》東武東上線「若葉駅東口」改札出口 9 時 20 分 (バス 30 分)
- 《申込・問合せ》元木孝 (携帯: 090-2259-1673)

◆ 浮世絵美術館と明治神宮の森～代々木散策 (参加自由) ◆

2月28日 (日) に 「浮世絵クラブ」主催の「まち歩き」

- 《日時》2016 (平成 28) 年 2 月 28 日 (日) 10 時～15 時頃 雨天決行
- 《集合》午前 10 時 明治神宮前「五輪橋」(J R 山手線「原宿」駅からすぐ。友の会の旗を目印に)
- 《申込・問合せ》① F A X : 048-470-2758 ② E メール : pu8n-tki@asahi-net.or.jp
③ ホームページの「申込フォーム」より送信フォームで登録。

今回、初の「館長特別ご優待」イベント実現

プレミアム講座「鯰絵の世界」+企画展鑑賞

3月19日から開催の博物館企画展「蔵出し資料～館有コレクションの優品」の初日に初の「館長特別ご優待」イベントが実現。当日9時半から、プレミアム講座「鯰絵の世界」をお聞きのうえ、その後、上記企画展を鑑賞させていただくイベントです。ぜひ、当会「会員証」をお持ちの上、当館講堂にご参集ください。通常は会員のご家族、お友達もご参加いただくことを認めておりますプレミアム講座ですが、今回は参加資格を「当会会員限定」とさせていただきますことをお許しください。

プレミアム講座講師 加藤光男氏 (当館学芸主幹)

加藤さんは、日本近世史、特に江戸時代の社会と文化がご専門。地震のモトといわれた「鯰」絵の全国的権威。鯰（なまず）絵は江戸時代に大地震のあと、流行した木版多色刷りの錦絵。鯰を描き込んだユーモアと風刺に満ちた鯰絵の当館コレクションは世界屈指。今回の企画展は押絵羽子板、清野コレクション等も展示。

とき 平成28年3月19日(土) 午前9時半～10時半 <時間厳守>

ところ 当館講堂その後展示室 **会員証をお忘れなく!**

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記、3月11日(金)必着で、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。返信はいたしません。お申込みいただければご参加いただけます。この企画展をご覧になる場合は、なるべく、この機会をご利用ください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

宮代町びっくぽん! 見学会

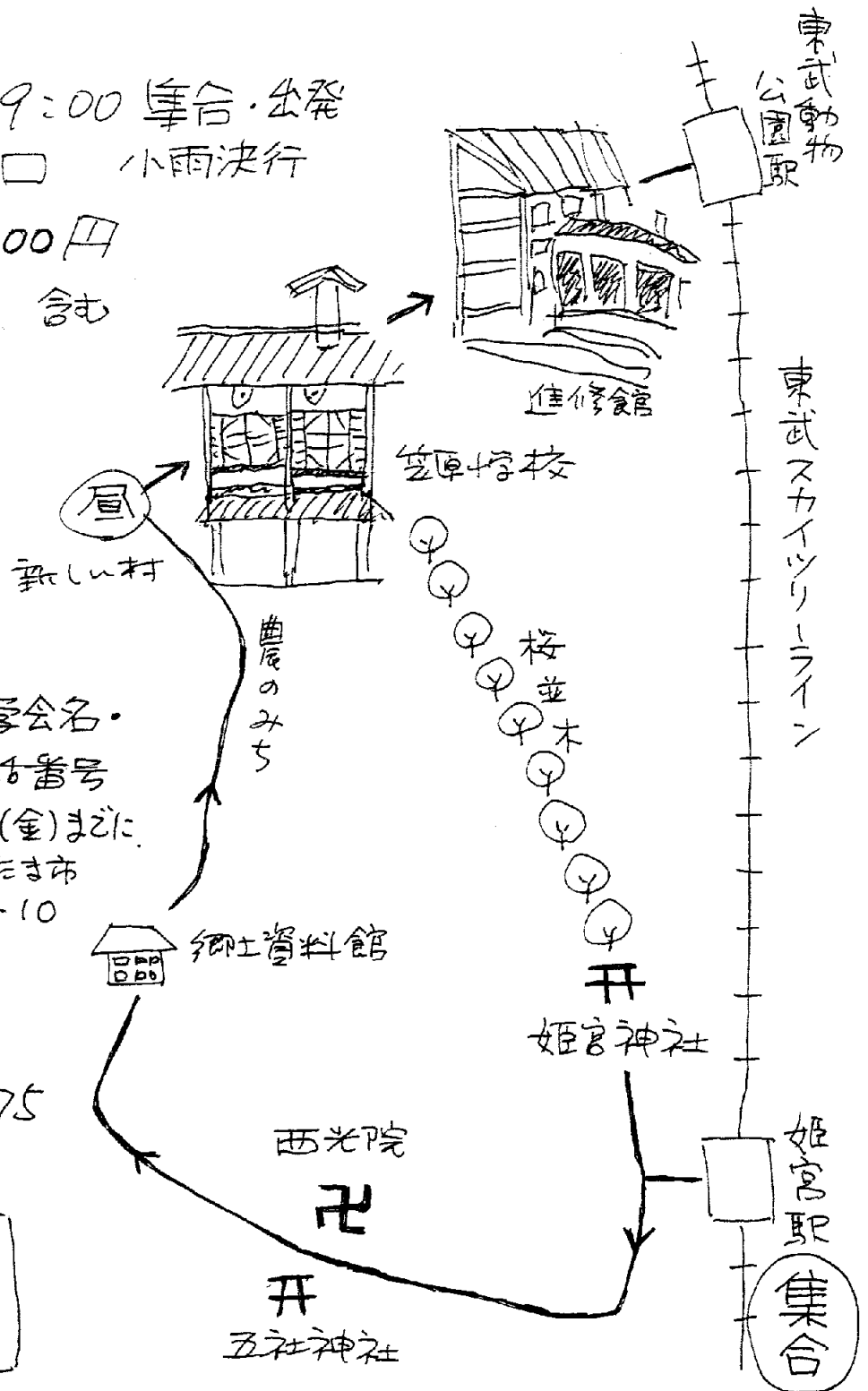
不安の仏を伝える古刹・西光院、龍宮の城で学ぶ笠原小学校
古から現代まで宮代町の玉手箱を開けて見せます!!

- 3月26日 AM 9:00 集合・出発
姫宮駅改札口 小雨決行

- 参加費 1,500円
『村弁』拝観料 含む
お昼用費はす!

- 参加申込み
 - 往復ハガキに見学会名・氏名・住所・電話番号を明記し、3月18日(金)までに
〒337-0042 さいたま市見沼区南中野1183-10 斎藤文孝へ

- 連絡先
090-4965-8275
斎藤



埼玉県立歴史と民俗の博物館 友の会

野 に 在 り て

会 員 小 倉 正 (蓮田市)

雪の朝。雨戸を開け、新鮮な空気を胸に大きく吸い込む。昨夜来の雪は止み、視野に入る景色は真白く化粧され、朝の陽光に輝く。お目にかかることの少ないこの風景、雰囲気が入っている。「武蔵野」の住人の一人は、しばしの間、見惚れる。

「武蔵野は 月の入るべき嶺もなし 草より出て 草にこそ入れ」(太田道灌)

昨夏、当館で開かれた、さいたま文学館・大明主幹による「森田恒友と文芸雑誌」と題する講演会。「文芸雑誌」の視点から森田恒友を語っておられたが、恒友は「森田恒友」画伯でもある。県立近代美術館(MOMAS)で親しく鑑賞している「わが愛する武蔵野の芸術家」の一人でもある。「平野の詩人」と称されていたが「平野(武蔵野)の画人、詩人、文人」である恒友は語る。「日本は山河の美しい国であり、この美しい自然の山に正対してのみ芸術になる国である。」「自然の中に人々の暮らしがあってはじめてそこに詩情が生まれる」「草の青さと水の明るさと、夏の平野は「水」のあることがうれしい」と。本当にうれしい!

この平野を、北は熊谷・行田、東は久喜・加須、南は浦和・川口、西は桶川・川越へと自転車のペダルを踏んで数多く訪れているが、目的地(学びの場・フィールド)の往復路はできるだけ「水の流れに沿う」ようにしている。道すがら「水の流れ」「花鳥風月」「大小さまざまな自然」と接し対話している身に、恒友の詩画は親しい存在。ペダルの足を止め「山座同定」も楽しい。関八州の山々。丹沢、富士山、奥多摩、秩父、浅間山、上毛三山、日光連山、そして筑波山。時には雪の八ヶ岳の一部も同定する。

歴史と民俗の博物館は「旧石器時代」から「近・現代」そして「民俗」「板碑」「特別展」と「武蔵野」にとって極めて重要な施設。また、「現在を見つめ、未来を展望するために、過去を学ぶ」視座を持つ身にとっては宝の山。訪れる度に発見、開眼がある。「JUNO」でも「もう全部見たと思っている常設展示の中に、面白いモノを探して、見直してみよう」との提案をしておられたが、全く同感!

「野に在りて」日々を生きる。言葉を替えるならば、「野人」が、巻頭言の末席を汚さぬように配慮せしも、未熟もの故「失礼」は平にご容赦願いたい。(侘び人、詫び人でもありしか)

お読みいただいた方との「対話」を願いつつ、脱稿。

(明日は 何処の 空の下ぞ)

年度末も近づきました。同封の振替用紙をご利用くださっての会費ご納入をお願い申し上げます

友の会トピックス

☆今後のイベントスケジュール

◎3月19日(土) 友の会「館長特別ご優待」イベント (詳細・前号に掲載)

午前9時半・講堂集合 企画展鑑賞と加藤光男学芸主幹の講演・会員証持参要

ハガキ事前申し込み要 その他無料

○同日～5月8日(日) 博物館企画展「蔵出し資料～館有コレクションの優品」開催

◎3月26日(土) 友の会見学会「宮代町・びっくりほん!見学会」 (詳細・前号に掲載)

午前9時・東武線姫宮駅集合 往復ハガキ事前申し込み要

参加費1500円(昼食込み) 連絡先090-4965-8275 齊藤

◎4月2日(土) 友の会・古道探索倶楽部「鎌倉街道を訪ねて一羽根倉道一」 (別ページに詳細)

◎4月10日(火) 友の会・日本の祭り研究クラブ「八雲神社春季例大祭」 (別ページに詳細)

◎4月16日(土) 博物館との共催講演会「邪馬台国から初期ヤマト政権へ」

講師・仁藤敦史先生(国立歴史民俗博物館・教授) (別ページに詳細)

◎4月22日(金) 友の会・浮世絵クラブ「井の頭公園と水車農家の見学会」 (別ページに詳細)

◎5月に講演会予定あり 詳細未定

◎なお、当会総会は5月の予定です

友の会トピックス

☆友の会には一人も職員はおりません。

それなのに、この会員数600人に近い団体が、それでも「何とか」動いております。会員の皆さまには、知的サービスをおこない、博物館の応援をさせていただきながら～

☆誰か動かしているのでしょうか。

それは、実は「会員」の方、なのです。会員のなかで、ボランティア的精神を持たれた方が無償奉仕で、この友の会を動かしていただいているのです。その奉仕的精神がなければ、友の会はとっくになくなっています。

☆年度の最後にあたり、あらためて、そのお働きについてお礼を申し上げます。

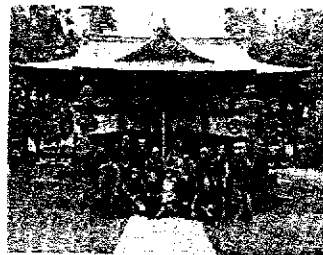
このお働きのご継続をよろしくお願い申し上げます。そして、続いていただく方をお待ちするや切です。

住吉神社神楽と周辺歴史散策(坂戸市)

2月23日(火)に「日本の祭り研究クラブ」主催の見学会

参加者 16 名。午前中は周辺歴史散策、午後に神楽を見学。散策の勝呂地区は「古墳」・「古代寺院」・「官道」がセットで分かる全国的にも珍しく、重要な文化遺産と考えられる場所です。「勝呂廃寺跡」、「坂戸市立歴史民俗資料館」、「勝呂神社古墳」、「東山道武蔵路」、「義家塚(塚越神社)」などを順に見学して回りました。

昼前に住吉神社到着、午前の部が奉納されており、そのまま見学する。その後昼食をはさみ、西光寺も訪れる。午後に、神剣貢の座(しんけんみつぎ)などの神楽を見せていただきました。(詳しくは友の会ブログで)



明治神宮の森散策と浮世絵美術館

2月28日(日)に「浮世絵クラブ」主催の「まち歩き」を開催



午前中に好天のもと、明治神宮を散策。時間が限られていましたので、参拝後に自由に歩いてもらいました。森の中はクスノキやカシノキなど常緑の広葉樹が多いのが特色です。いわゆる武蔵野のケヤキやコナラを中心とした雑木林との違いがよくわかります。春や夏にも来てみたいものです。

午後は表参道の太田記念美術館へ。浮世絵を集めた専門美術館です。時期に応じた浮世絵作品を順次展示しますが、この日の特別展は「勝川春章—北斎誕生の系譜」。北斎や写楽などの絵も展示され、浮世絵師の系譜—流れがたどれるようになっています。美術館見学のあと、近くの東郷神社へ。(詳しくは友の会ブログで)

クラブ活動 今後の予定 (参加者募集中)

◆井の頭公園と水車農家の見学会◆

4月22日(金)に「浮世絵クラブ」のまち歩き&見学会

《内容》井の頭公園と春の野川公園・水車小屋

《行程概略》広重・名所江戸百景中の最西端「第87景 井の頭の池弁天の社」の舞台を訪ねて井の頭公園へ。午後は深大寺から野川公園を経て、三鷹・大沢の里の水車(都重文・動態保存)見学。国分寺崖線には湧水と横穴墓も。調布飛行場には戦争遺産もあります。

《日時》2016(平成28)年 4月22日(金) 10時~15時頃 雨天決行(各自で判断)

《集合》午前9時30分 JR中央線・吉祥寺駅南口(公園口)改札集合

《費用》保険代・入館料など300円。徒歩とバスで移動します。

《申込・問合せ》①FAX: 048-470-2758 ②Eメール: pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③「ホームページ」

◆神社春季例大祭と周辺散策(東京都羽村市)◆

4月10日(火)「日本の祭り研究クラブ」の見学会

《内容》八雲神社春季例大祭と周辺散策(東京都羽村市)

《行程概略》玉川上水の水源地「羽村堰」で知られる羽村市で、春に花とまつりが開催される。呼び物は八雲神社の神輿による水中渡御。3基の神輿が桜舞う多摩川を渡る。周辺散策は、まいまいず井戸・禅林寺(中里介山の墓)・玉川上水取水堰・郷土博物館等を訪ねます。(BS12(土)18時~日本の祭り放映予定=日程は未定)

《日時》2016(平成28)年 4月10日(日) 9時30分~15時 雨天決行

《集合》JR青梅線「羽村」改札出口 午前9時30分

《費用》交通費(電車・バス等)、保険代100円等 《持物等》歩きやすい靴及び服装・昼食弁当・飲物・カメラ等

《申込・問合せ》元木孝(携帯:090-2259-1673)

◆鎌倉街道を訪ねて—羽根倉道(引又道) (詳細はJUNO2月号に掲載)◆

4月2日(土)に「古道探索倶楽部」主催の第13回見学会 東所沢駅~柳瀬川駅まで

《日時》2016(平成28)年4月2日(土) 9時30分~15時30(予定)

《集合》JR武蔵野線・東所沢駅改札口付近(9:30)

《費用》資料代等300円

邪馬台国から 初期ヤマト政権へ

＜ 狗奴国の動向を中心に～ ＞

奈良県桜井市の箸墓古墳は卑弥呼のものか、娘の台与のものか、明確ではありません。

しかし、それがどちらのものにしても、そのあとの「ヤマト政権」にはどのようにつながったのでしょうか？そして、邪馬台国のライバル・狗奴国はどうなったのでしょうか？

講師 仁藤敦史先生 (国立歴史民俗博物館・教授)

とき 平成28年4月16日(土) 午後1時半～3時

場所 当館講堂 (東武野田線・大宮公園駅下車5分)

参加無料

お申込みは往復ハガキにお名前・住所・電話番号・イベント名・会員の方は会員番号を明記、返信面にお名前・ご住所を記入し、4月13日(水)までに〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。締切前でも定員150名を超えた場合はお断りすることもあります。当日は往復ハガキ返信部をお持ちください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会